

放射線部における医療安全対策

MRI (磁気共鳴画像診断) は、強力な磁石 (磁場) と電波を利用して、体内を精密に撮影する検査です。脳や脊椎、腹部、関節など全身の病気の早期発見や治療方針の決定に役立ち、CTとは違い放射線を使わないため被ばくの心配はありません。一方で、強力な磁場を使用するため、体内の金属や医療機器への影響、金属類 (鍵、財布など) の持ち込みについては十分に確認し、安全を確保することが何より大切となります。

当院では、患者さんが安心して検査を受けられるよう、多職種による丁寧な確認体制を徹底しています。事前にご記入いただく問診票をもとに、診療放射線技師、医師、看護師、受付がそれぞれの専門的な立場から重ねて確認を行うことで、情報共有と確認漏れの防止に努めています。心臓ペースメーカーなどの植込み型医療機器をお使いの方には循環器内科と連携し、事前に対応状況を確認した上で、検査の前後に機器の作動状況を点検 (デバイスチェック) を実施するなど万全を期しています。

また、特に当院で力を入れているのが、全職員を対象とした安全教育です。定期的な安全講習会に加え、強力な磁石に引き寄せられる作用を身をもって体感する「磁場体験」研修を実施しています。見えない磁場の威力を実際に体感することで、持ち込み禁止物の管理や事故防止に対する意識を全職員が高め、事故を未然に防ぐ安全行動を徹底しています。

さらに、少しでも快適に検査を受けていただけるよう検査環境にも細かな配慮を行っています。撮影中の大きな音に対しては耳栓やヘッドホンをご用意しているほか、狭い場所が苦手な方や腰痛などで同じ姿勢を続けるのがご負担になる方など、患者さんの状態やご不安に合わせて丁寧に対応しています。



当院はこれからも徹底した安全管理と多職種連携を重ね、安心できる検査環境の提供に努めてまいります。ご不明な点や不安なことがありましたら、いつでも気軽にスタッフへご相談ください。

(文責：医療技術部放射線部門 黒田 亮)

麻醉科学講座 教授

就任のご挨拶

大分大学医学部

麻醉科学講座 教授

まつもと しげきよ

松本 重清



令和8年5月1日付で、麻醉科学講座の教授に就任いたしました。私は熊本市で生まれ、両親の実家がある愛媛県で育ちました。1987年に大分医科大学に入学してからは、人生の大半を大分県で過ごしており、この地に変な深い愛着を感じております。卒業後は麻醉科学講座に入局し、大学で研修した後、大分県内をはじめ宮崎、福岡の病院で臨床経験を積み、1999年より当大学病院にて診療に携わっております。

皆様は、麻醉科医の仕事を「手術中に患者さんを眠らせる役割」と思っているかもしれませんが、かつて、全身麻酔がなかった時代には、恐怖や痛みに耐えながら手術を受けるしかありませんでした。1800年代に全身麻酔が登場し、患者さんはようやく苦痛から解放されましたが、実は麻酔薬には、心臓の働きを弱めたり、呼吸を抑えたりする作用もあります。だからこそ私たち麻酔科医には、全身麻酔を安全に行い、心臓や呼吸をしっかりとサポートするための高度な知識と技術が求められます。手術中は、思いがけない出血や血圧の低下などが起こり得ます。私たちは常に患者さんのそばに寄り添い、状態を絶え間なく見守っています。万が一の変化にも速やかに対応し、手術による体への負担を細かく調整しながら、「患者さんの命と安全を守る」という重要な役割を担っています。また近年、術後の痛みは単なる不快感だけでなく、その後の回復にも影響することが分かってきました。当院では麻酔科医、看護師、薬剤師などによる専門チームを結成し、手術室だ

けでなく病棟に戻ってからも術後の痛みを和らげるサポートを積極的に行っています。

私たちの知識と技術は、手術室だけでなく集中治療室（ICU）でもいかされています。術前から心臓や呼吸の機能が低下している方や、術後に状態が悪化した方の治療を担うほか、新生児からご高齢の方まで、あらゆる重症患者さんを24時間体制で受け入れ、命を救う「大分県の最後の砦」としての役割も果たしています。さらに、麻酔科医は「痛みの治療」の専門家でもあります。神経ブロック注射や様々な鎮痛薬を駆使する技術は、術後だけでなく、慢性的な痛みを治療するペインクリニックにおいてもいかされています。最新の超音波装置を用いた安全な神経ブロックや、高度な痛みの専門治療を組み合わせ、がんの痛みを和らげて生活の質を高める緩和ケアにも力を注いでいます。

このように麻酔科医の役割は多岐にわたりますが、各々がしっかりと連携することで、手術前から手術中、そして術後の回復に至るまで、途切れることのない「安全で快適な周術期医療」を提供してまいります。これからも、患者さんの健康と穏やかな日常を守るために、私は講座のスタッフと共に全力で取り組んでまいります。今後ともご支援、ご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。

入院について

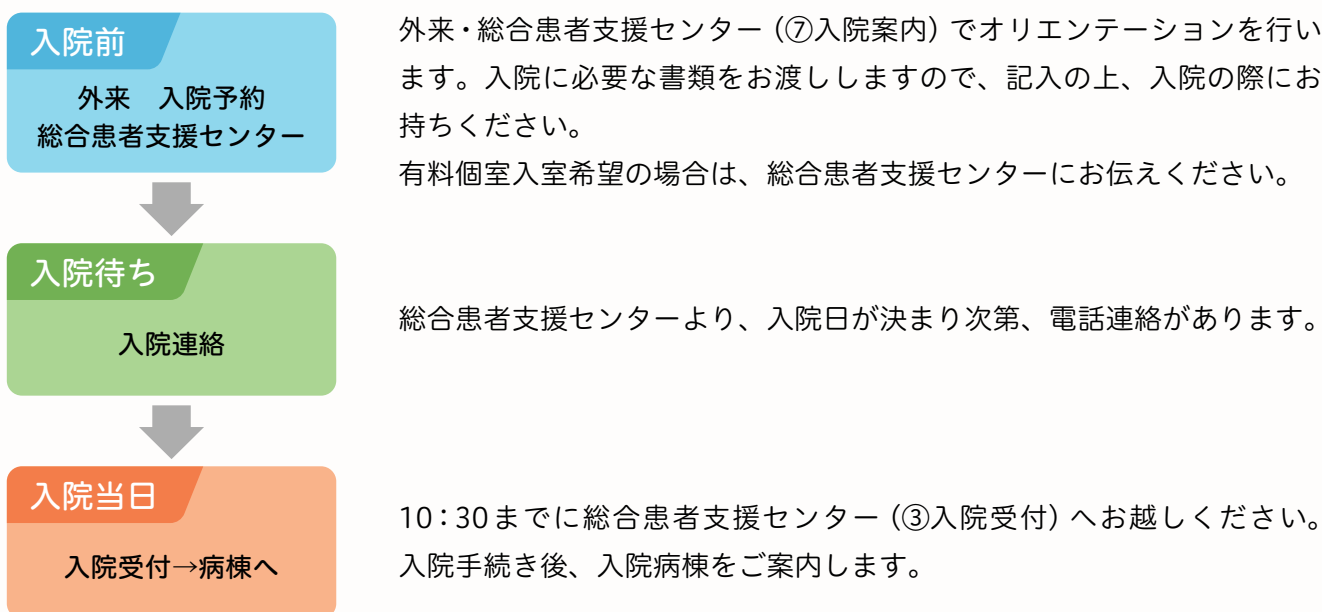
今回、入院治療が決まった患者さん向けに、入院について簡単にご案内いたします。詳しくは、入院前オリエンテーションにて説明いたしますので、不明な点はお尋ねください。



入院前オリエンテーションでお渡しする冊子「入院のご案内」は、こちらからご覧になれます



入院までの流れについて



※入院に必要な書類、お持ちいただく物の詳細は、「入院のご案内」をご覧ください。

入院生活について

●日課（入院中の一日の流れ）



●食事（はし・スプーン・湯呑などはご自身で用意ください。）

主食は、食事の種類によっては、パンまたはごはんを選択できますが、患者さんの状況によって制限されることがあります。

食事の自己負担額は、一般の患者さんの場合1食につき550円です。

●面会

面会時間は、平日14:00～20:00、土日祝日10:00～20:00、1日1回30分以内です。

ただし、入退院時や病状説明、手術・検査の待機等の場合は、この限りではありません。

面会の際は、発熱や呼吸器症状等がないことを確認した上で、ご家族5名以内（可能な限り最小限）をお願いします。

●はきもの

入院中は、滑り止めの工夫がされた「はきもの（靴タイプのもの）」でお過ごしく下さい。

●駐車場の利用について

入院患者さんには、原則として
入院中の駐車をお断りしています。

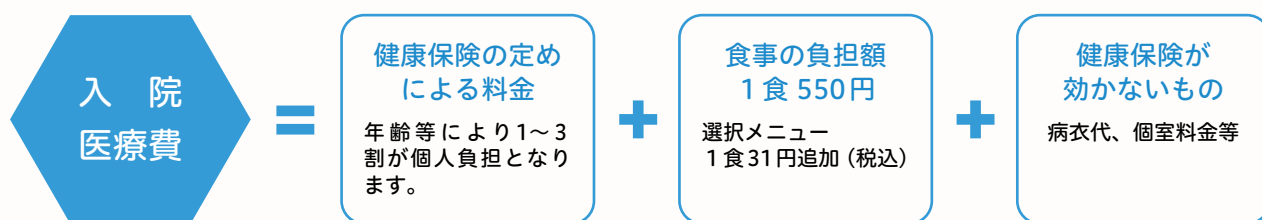
お見舞いの方が 駐車場を利用する 場合の料金	30分まで無料
	最初の3時間まで200円、 以後1時間増す毎に100円
	1日最大 800円

入院医療費について

大分大学医学部附属病院は、包括評価算定（DPC/PDPS）の対象病院です。

歯科・精神科を除いて、入院費は包括評価算定で計算することとなっております。

詳細についてお知りになりたい方は、入院受付へお申し付けください。



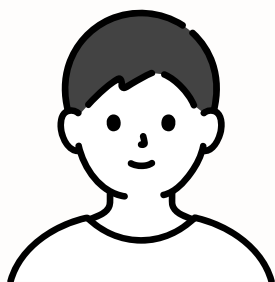
入院費の計算は、健康保険の定めにより、午前0時を起点に日数計算をします。

（文責：医事課医事サービス係）

～患者さん・ご家族・ご来院される方へ～

2026年4月より

マスクの着用は個人の判断となりました。



つけなくてもOK



つけてもOK

ただし、咳などの症状がある方や以下の病棟では、マスクの着用をお願いします。

4階東病棟、6階東病棟、7階東病棟、NICU・GCU、集中治療部、
血液浄化センター、高度救命救急センター



（文責：感染制御部）

「理学療法士（PT）」 ってどんな仕事？」

皆さんは「理学療法士（PT：Physical Therapist）」という職種をご存知ですか？大分大学医学部附属病院のリハビリテーション部には、現在十数名の理学療法士が在籍し、日々患者さんの回復をサポートしています。今回は、理学療法士がどのような役割を担い、どのようなお手伝いをしているのかをご紹介します。



■理学療法士（PT）とは？

病気や怪我、手術などによってお体に障がいが生じた方や、体力が低下してしまった方に対して、「日常生活に必要な基本動作」がスムーズにできるよう支援する職種です。具体的には、「起き上がる」「立ち上がる」「歩く」「階段を上り下りする」といった体全体の基本動作の回復を目指し、お一人おひとりの状態に合わせた「運動療法」や「物理療法」を行います。

■具体的なサポート内容

① 運動療法（体を動かして機能回復を図る）

関節をスムーズに動かせるようにする「関節可動域練習」や、筋力を高める「筋力向上練習」、歩行器や杖などを使用した「歩行練習」を行います。必要に応じて心電図や血圧の変動に注意しながら、安全に練習を進めます。

② 物理療法（機器を用いた方法）

温熱や電気刺激、超音波などの物理的なエネルギーを利用して、症状の軽減や痛みの緩和、回復の促進を図ります。

■大分大学病院ならではの特徴

当院では、新生児から超高齢の方まで、あらゆる年齢層の患者さんに対応しています。整形外科や脳の病気だけでなく、心臓や肺の病気、がん治療、手術の前後（急性期）など、発症早期の病気や手術の直後から、早期の回復を目指してリハビリを開始します。私たちは医師や看護師、作業療法士、言語聴覚士などと連携し、患者さんが「できるだけ早期に、住み慣れた地域で最良の生活が営めるよう」、心に寄り添いながら日々サポートしています。

あなたの声を お待ちしております

良い病院になるために

患者さんの声は、要約して載せておりますので
ご了承ください。



声

他の患者さんの面会の方が病室でしゃべり続けて
いました。面会者は面会室で話してほしいです。

回答

療養の病室で不愉快な思いをさせてしまい申し訳あ
りません。入院時に面会は可能であれば食堂か面談
室でお願いしております。

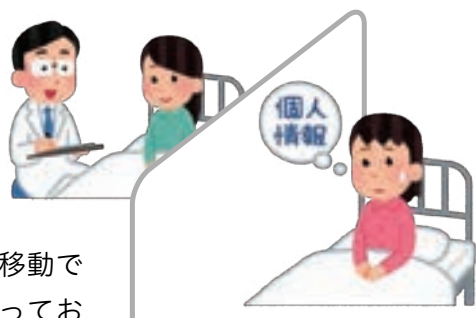


声

大部屋を利用したが、他の患者さんの個人情報を
病室内で聞き取りされて、耳にするのが心苦しい
です。また、自身の情報を聞かれたくありません。
患者が動けるのであれば他の部屋を活用する等の
配慮をしていただきたいです。

回答

別室での聞き取りを基本としていますが、病状により移動で
きない場合は、病室での聞き取りの承諾を得てから行ってお
ります。同室の方が様々な思いを抱かれていることを、今回
の「声」で再認識するとともに、今後のサービスにつなげてい
きたいと思います。



＼ 感謝の声 /

声

「ウェルコネ」を診察日に登録したら、当日から後払いができ、
通知をONにしていれば、診察待ち時間に他の場所で過ごせ
るので良かったです。次回の予約確認も出来るので大変便利
でした。

回答

アプリのご利用ならびにご感想をいただき、誠にありがとう
ございます。登録当日のアプリ決済や通知機能を活用し、待
ち時間を有効にお過ごしいただけたとのこと、大変嬉しく思
います。今後もより快適に通院していただけるようサービス
向上に努めてまいります。



(文責：病院長)



大分大学医学部附属病院

〒879-5593 由布市挾間町医大ヶ丘1丁目1番地 TEL 097-549-4411(代)
大分大学医学部附属病院ホームページ <http://www.med.oita-u.ac.jp/hospital/index.html>

これまでの「かけはし」は、医学部附属病院ホームページからご覧いただけます。

